

「観光需要回復のための滞在型テレワーク推進プロジェクト」 取り組み事例のご紹介

2020年6月環境省公募事業で採択

- 滞在型テレワークで新たな行動様式の提案 -

「観光需要回復のための滞在型テレワーク推進プロジェクト（滞在型テレワーク推進PJT）」（ロングステイ財団、全国古民家再生協会、日本テレワーク協会テレライフ部会、地域観光開発推進機構）は、福岡県北部古民家再生協会（代表山口昇）が応募した「環境省公募事業令和2年度（補正予算）国立・国定公園への誘客の推進事業費及び国立・国定公園、温泉地でのワーケーションの推進事業補助事業公募」に支援を行い、「平尾台地区ワーケーション開発事業」が採択された。

平尾台は福岡県北東部（北九州市小倉南区、行橋市、田川郡香春町、京都郡苅田町、同みやこ町に跨る）に位置する標高370～710mのカルスト台地であるが、日本三大カルストのひとつに数えられ、天然記念物・国定公園・県立自然公園の指定を受けている。

本事業では平尾台麓にある古民家（北九州市小倉南区大字井手浦292番 原田邸）に、テレワーク環境を整え、今日話題のコロナ禍における新しい行動様式ワーケーション誘致を開始する。該当の古民家は今後、農林水産省農村漁村振興交付金（農泊）事業を活用した改修計画を検討している物件であり、持続的な環境整備を進め、本格的な次世代ワーケーション誘致を視野に入れている。

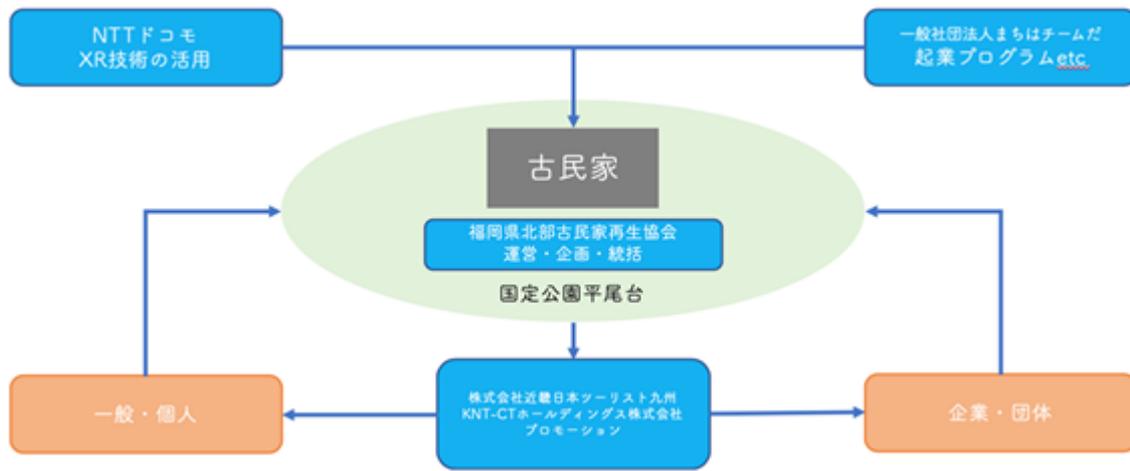
《事業概要》

都市部と比較的近いエリアに所在する拠点という環境を活かし、NTTドコモが運用試験をおこなうXRソリューションを活用し、2拠点間を結び次世代ワーケーションを擬似体験するプログラムを実施し、ワーケーションを導入検討する企業等へ実証実験的な滞在体験を提供する。



《連携体制》

一般社団法人福岡県北部古民家再生協会を中心にNTTドコモ、KNT-CTホールディングス株式会社、株式会社近畿日本ツーリスト、一般社団法人まちはチームだ などその分野の専門家連携チームで対応。



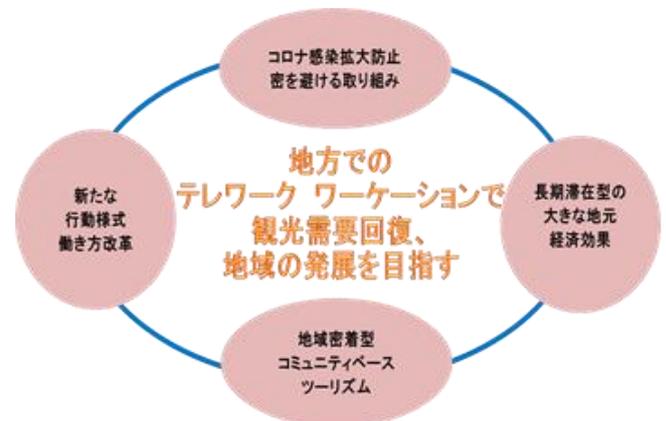
本プロジェクト滞在型テレワーク推進PJT設立の背景は、コロナ感染拡大により大きく落ち込んだ観光需要回復への打ち手として、特に地方のテレワーク、ワーケーション活用が有効な手段として、全国古民家再生協会が手掛ける全国の旅館、宿泊施設（古民家を改修）再生に、関係人口誘致に有効な滞在型ツーリズムとテレワーク導入支援に各専門家とともに支援し、旅行会社による観光開発と商品展開を支援する。

地方ワーケーションは都市部と比較して三密対策が取りやすく、且つ自然や観光資源が至近などオンオフの切り替えも容易、通勤時間の有効活用、リビングコスト削減などメリットも多い。

今後も以下の地域で取り組み、観光需要回復の機会創出、多角的な誘客を通じて、市場創造と地域再活性に資する活動を進めていく。

■この他にも以下の2地域で実証事業を行います。

- ・天草新発見ワーケーションツアー検証事業
熊本県天草市 雲仙天草国立公園 天草西海岸地域
申請者 古民家再生協会熊本第二 代表理事 住田節美
- ・うきはワーケーション・チャレンジ2020
福岡県うきは市 筑後川温泉
申請者：福岡県中央古民家再生協会 代表理事川口智廣



その他取り組み予定地域（自治体）

滋賀県（長浜市、米原市）、香川県（丸亀市）、北海道（石狩市）、神奈川県（松田町、小田原市）、宮城県（大崎市、登米市）、栃木県（日光市）、宮崎県、茨城県（筑西市）、岐阜県（養老町、高山市）、京都府（亀岡市）、富山県（南砺市）など

■<事務局> 一般財団法人ロングステイ財団 常岡（事業部長）

このリリースに関するお問い合わせ先
 ロングステイ財団事業部 tusneoka@longstay.or.jp 担当 常岡